

大学間連携による専門職連携教育

— 「彩の国連携力育成プロジェクト」の課題と展望—

○ 埼玉県立大学 大学間連携共同教育推進事業担当 大部 令絵 (008907)

キーワード : 大学間連携, 社会福祉士の専門性, 専門職連携

1. 研究目的

本研究では、多領域の学生と共に実習に参加した社会福祉学科学生のレポートを分析し、専門職連携教育 (Interprofessional Education ; IPE) の観点も含め、実習で得た気づきの特徴を明らかにすることを目的とした。

社会福祉士養成課程に IPE が導入されるには、IPE において従来の養成教育で得た専門性が発揮されると同時に、「連携」について得られる気づきの特徴が示される必要がある。

なお、本研究では、複数の大学が連携して教育に取り組む「大学間連携共同教育推進事業」における実習をとりあげ、IPE の基礎資料として示すことで、社会福祉士養成教育における IPE の新たな導入形態検討の一助とすることを旨とする。

2. 研究の視点および方法

2014年8月に3日間行われた「専門職連携実践実習 (以下、IPW 実習)」に参加した社会福祉学科学生5名の最終レポートを、本研究の分析対象とした。

「IPW 実習」では、保健医療福祉関連施設等 (以下、施設等) において、社会福祉学科学生を含めた多領域の学生6名がチームを組み、施設等の利用者に対して生活上の課題に対する提案を行った。なお、分析対象学生5名の実習地は、介護老人保健施設2ヶ所、病院1ヶ所、在宅診療所1ヶ所、障害者福祉施設1ヶ所であった。

最終レポートの問いは、「1~3日目のシートを踏まえて IPW 実習で学んだこと、「チーム形成」、「多領域の相互理解」、「利用者・集団・地域の理解と課題解決の検討」および自分の目標に対するリフレクションを総括した内容をレポートする。(2000字以上)」であった。

最終レポートの文章を品詞で分解し、全体的な出現傾向の類似性に基き分類するため、クラスター分析を実施した。また、5名のレポート各々の気づきの特徴について明らかにするため、[学生]×[品詞]のクロス集計表に対してコレスポンデンス分析を適用し、各学生の気づきの特徴を検討した。分析には、KH Coder (Ver. 2. Beta. 32c) を使用した。

3. 倫理的配慮

本研究は、埼玉県立大学倫理委員会の承認を得て行われた (通知番号 : 26100 号)。対象学生5名には、最終レポートの研究使用に関して同意書の記載をもって、同意を得た。

4. 研究結果

分析の結果、72種の品詞は9群に類型化された(Table)。

また、実習からの気づきは複数の成分で構成され、第2成分までで累積寄与率が60%を超えたため、第2成分までの構成を検討した。

第1成分では、患者・利用者の支援やケアプランに関わる品詞が+1.00以上、チームメンバーの行動や

関係性に関わる品詞が-1.00以下の値を示した。

第2成分で+1.00以上なのは、患者・利用者の医療や生活、家族も含めたトータルな支援に係る品詞、-1.00以下は、情報収集やニーズの把握も含め、ケアプラン作成に重点をおく様子を示す品詞であった。

5. 考察

品詞の類型化から、参加学生は患者・利用者の家族や地域性を考慮に入れた課題解決を目指して専門性を発揮する一方、情報収集や患者・利用者の理解についてはチーム活動を基礎として気づきを得ている様子がみられた。同時に、多職種の理解や、チーム形成のプロセスとして生じる対立についても言及がみられた。他方、学生5名の気づきの特徴については、第1成分において学生1と4、第2成分においては学生3と4とで特徴の際がみられ、実習地間で学びの質をそろえるためには、IPEに先立つ準備教育の充実、教材やファシリテーション方法等の標準化が必要であると考えられる。

Table 最終レポートに10回以上出現した語のクラスター分析

Table with 6 columns and multiple rows showing word clusters (C1-C9) and their associated words and counts. Clusters include 'ケアプラン検討', '地域・家族を視野に入れた課題解決', 'IPW 実習の意義', 'チームによる情報収集・整理', 'チームによる話し合い', '専門的視点の多様性', 'チームの対立', and '専門職種連携の能力獲得・環境整備'.

注)Cはクラスターを示す。数値は出現回数。

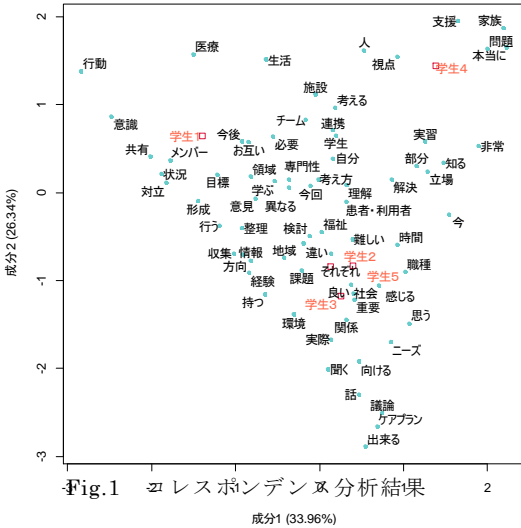


Fig.1 コレスポネンズ分析結果